



發行所

山形県立寒河江工業
高等学校 P T A

山形県寒河江市緑町148
電話(86)4278

第 76 号

令和2年3月3日



今年の思い出



日頃より皆様にはPTA活動に多大なご理解とご協力を頂き誠にありがとうございます。さて、皆様、PTAは何の頭文字なのか、そしてその目的は何なのかご存知ですか？なんとなく臆気に意味は知っているけれど、きちんと答えられるかと言うと私自身自信が無いので活動の始めに調べてみました。

①「PTAって何の頭文字？」
Parent (親) Teacher (先生) Association (会) よく耳にする「父母と教師の会」なんです。

②「PTA活動の目的は？」
多くの目的がありますが、それらをまとめ端的に表現すると、「父母と教師が協力し生徒の健全な発達に寄与すること」です。



PTA会長

遠田 恵信

PTA活動にて考える

た、環境の整備を行い構築してしっかりと生徒に寄り添っていく必要があるので。子供に寄り添える時間はあつという間に過ぎます、ましてや高校生活の3年間となると一瞬です。3年生の保護者の皆様は「私はPTA活動で子供達にきちんと寄り添ってきたのか」を自問自答してみて下さい。在校生の保護者の皆様は、生徒達(子供)にこれまで以上に寄り添い生徒達への支援をお願いいたします。はたして私はこの一年間PTA会長としてしっかりと活動できたのか？そう思うと疑問がいくつも湧きますが、活動の終わりに今思うことは、

PTA活動とは生徒達への健全な成長の為に活動したのが、結果、自分の成長の為でもあつたなど実感しています。保護者、教職員、生徒、後援会、地区PTA、他校の役員、すべての皆様との出会いが、私の成長の大きな糧となりました。このような機会を与えてくれた皆様に感謝申し上げます。

最後になりましたが、やり残した課題は多くありますが次の役員へしっかりと引き継ぎの学校、山形県立寒河江工業高等学校、さらにPTAが素晴らしいものになっていく様陰ながら応援させていただきま。一年間本当にありがとうございました。

「輝け！未来のエンジニア」
未来は僕らの手の中に！

各専門部より

今年度を振り返って

総務部部長 黒田 陽一

令和になって初めてのPTA活動も残りあとわずかになりました。一年間PTA活動にご理解とご協力を頂きありがとうございます。総務部の活動としては、PTA活動全般の推進および育成部、文教部等他の専門部との連携を通しての活動。地区PTA、学年PTA活動の推進や支援などがおもな活動内容になっていきます。特に今年度は、東北地区高等学校PTA連合大会が本県の山形市で開催されました。私もスタッフとして大会に参加させていただきました。東北各県より多くの先生とPTAの方、県内の学校からも多くの方がスタッフとして参加しているとても活気のある大会でした。今回初めて参加させてもらい感じたことは、各学校同じような問題をかかえていて学校とPTAの方がそれぞれ特徴のある方法を考え解決しようとしている姿勢を強く感じました。

3年間を振り返って

三学年主任 菊池 敏宏

三年生の保護者の皆様、お子様のご卒業誠にありがとうございます。また、これまでの学年運営に對しご理解とご協力を頂き深く感謝申し上げます。これまでの3年間を振り返りますと、月並みですが長いようで短い3年間でした。この間様々なことがありました。が、最後の一年にこれまでの学校生活の全てが凝縮されているように思います。全員が自己の進路目標達成という大きなハードルに挑

最後になりますが、学年委員長三年生からは総務部長というPTAの役員を最初はできるのだからかと不安でしたが、いざ活動してみると会議や行事に参加する機会が増え学校や子供たちのことを身近に知ることが多くなり自分自身も勉強させていただきました。参加出来ない行事や会議等もありそのつど先生方や保護者の皆様にお世話になった事に感謝申し上げます。大変ありがとうございました。

今年度を振り返って

育成部部長 須藤 宏幸

令和元年度PTA活動、残りわずかになりました。今年度の育成部の主な活動は、マナーアップ運動・登校時一声運動です。

生徒登校時間に、先生方と役員の方で一人一人と朝の挨拶をしました。「おはようございます」と声を掛けると、元気な声で挨拶を返してくれ、朝から晴れやかな気持ちになりました。生徒各々と顔を合わせ声をかけ合う事は普段できないので、大変貴重な時間を過ごせたと実感しております。

毎年参加の寒河江祭り神輿の祭典での巡回活動につきましては、

み、約9割の生徒が第一希望に合格するという素晴らしい結果となりました。勿論生徒一人ひとりが不断の努力を積み重ね、保護者の皆様のご指導があったからこそと思います。更には求人数が多く「売り手市場」だったという好条件にも恵まれ、様々な要因が重なった結果ではないかと思えます。

新人戦との兼ね合いの為参加できませんでしたが、来年度は力強い工業生達の神輿参加が見られたら嬉しく思います。

七月に県高P連街頭運動へ参加させて頂きました。山形駅で会場案内、先生方の御指導のもと、活動をスムーズに行えました。

PTA活動を通して、生徒達の成長を間近で感じ見れた事、また、先生方と話す機会がありました事心より嬉しく存じております。

最後に、一年間育成部長を務めさせて頂きお世話になりました先生方と役員の皆様、ご協力頂きました事、感謝申し上げます。本当にありがとうございました。

今年度を振り返って

文教部部長 兼子 尚龜

一年を振り返ってというより、文教部にお世話になった3年間を振り返って、一年目はただ沢も分からず先輩方に付いていき、二年目に何とか活動内容と方向性が分かり、3年目、部長として皆を引っ張って行こうと思った矢先にはもう終わりになっていました。まさに生徒と同じ心境であつたという間に過ぎた3年間でした。至らぬことがあつたことをお詫言します。

保護者の立場として、ともすれば敬遠しがちなPTA活動ですが、学校を訪れる回数も増えるに従い、先生方との交流も増え、自分の子供が通う学校の校風、生徒が目指すべき方向性など、普段家にいるだけでは知ることが出来ないことを見聞きできた有意義な3年間でした。

保護者の方々には敷居が高いと思わずに、これからは気軽にPTA活動に参加して頂けたらと思います。

最後に本紙、寒工高PTA新聞発行にご尽力頂いた方々、今年も皆様のお陰を持ちまして無事に発行することができました。本当にありがとうございました。

保護者の皆様には、日ごろより本校の教育活動にご理解とご協力をいただき誠にありがとうございます。

特に本年度は、第68回東北地区高等学校PTA連合会山形大会が山形市で開催されましたが、役員の皆様を中心に総会や研究大会等に御参加いただき、大会を盛り上げていただきましたことに感謝申し上げます。また、各地区のPTA活動では、親子ボランティア活動やPTA懇談会など独自の取組みにより、生徒の成長に大きく貢献いただいております。更に、「寒工祭」では、運営や展示を通して保護者の方から、生徒と一緒に

チーム寒工！ ワンチームで宝(人財)を磨く



校長
高橋 良治

事になって行事に取組んでいただき、改めて感謝申し上げます。

さて、生徒一人ひとりを「輝くエンジニア」とするため、本年度から、教育のスローガンに『情熱』『挑戦』『変革』そして「極める」「好きなこと」得意なこと「勝負！」を掲げました。このスローガンのもとに生徒たちは、昨年度以上に多くの成果をあげてくれました。県新人体育大会では、弓道部が男子団体と個人で優勝を果たし、メカトロアイデアコンテスト(全国高校ロボット競技大会県予選会)では準優勝に輝き、全国大会出場を果たしました。また、やまがた高校生ロボットコンテストでも見事に2連覇とな

り、マイコンカーラリー山形県大会でも健闘し、全国大会出場を果たしています。特に、本校のロボットづくりを通して人づくりについては、新聞やテレビ情報誌でも取り上げられ、地域の方から「立派な功績で誇らしい」「ものづくりをしている真剣な顔が素敵」「ものづくりが好きなきが輝ける学校っていいですね」など多くの称賛の声が寄せられました。更に、国家資格である技能検定に2・3年生はもちろん、1年生からも積極的に挑戦する姿が増え頼もしく思えます。このような活躍ぶりに本校生徒の多大な可能性を実感しています。

教育においては、学校・家庭・地域がワンチームとなつた連携が大切であり、この重要性は年々強まっていると感じております。本校にとってのお客様は「地域社会」であり、生徒たちは「大事な地域の宝(人財)」であると考えています。この地域の宝を学校・家庭・地域で構成するチーム寒工が連携し、磨き上げ、地域社会に望まれる担い手に育て、地域社会に送り出すことがチーム寒工のミッションだと思っています。これからも「輝くエンジニア」の育成に、チーム寒工がワンチームとなり、全力で取組んでまいりたいと思いますのでどうぞよろしくお願い申し上げます。

総務部

令和元年度

学校評価アンケート

総務部部長 遠藤 文子

会員の皆様からアンケートにご協力頂きありがとうございます。データ比較等の観点から前年度と同様のアンケート項目で実施しました。概要は次の通りです。

○回収率は、保護者が九一・九%、職員が一〇〇%。

○評価が高かった項目は②⑦⑪⑬。

○②は前年度同様高ポイント。

○⑩⑬は教員のポイントが大きく上昇。評価が低かった項目は④。保護者と教員の捉え方の違いが現れた形になった。

今後、記述部分も含めて結果を分析し、来年度に活かしていきます。

①全体PTA関係(総会・学年PTA等)の取り組みはどうでしたか

	5	4	3	2	1	未回答	平均値	前年比
保護者	19%	31%	49%	0%	0%	0%	3.7	0
教員	17%	36%	44%	3%	0%	0%	3.7	▼0.2

②地区PTA関係(地区懇談会・ボランティア等)の取り組みはどうでしたか

	5	4	3	2	1	未回答	平均値	前年比
保護者	25%	35%	40%	0%	0%	0%	3.8	0
教員	17%	44%	39%	0%	0%	0%	3.8	0

③学習指導(授業・定期考査・課題等)の取り組みはどうでしたか

	5	4	3	2	1	未回答	平均値	前年比
保護者	17%	35%	44%	3%	0%	1%	3.7	△0.1
教員	3%	33%	53%	8%	0%	3%	3.3	0

④お子さんの家庭学習への取り組みはどうでしたか

	5	4	3	2	1	未回答	平均値	前年比
保護者	11%	23%	36%	22%	7%	0%	3.1	△0.1
教員	0%	0%	17%	69%	14%	0%	2.0	▼0.3

⑤生徒指導(身だしなみ・交通安全等)の取り組みはどうでしたか

	5	4	3	2	1	未回答	平均値	前年比
保護者	19%	34%	44%	3%	0%	1%	3.7	▼0.1
教員	6%	22%	56%	14%	3%	0%	3.1	△0.1

⑥部活動指導はどうでしたか

	5	4	3	2	1	未回答	平均値	前年比
保護者	23%	31%	35%	9%	2%	0%	3.6	▼0.1
教員	6%	53%	36%	6%	0%	0%	3.6	0

⑦進路指導(就職・進学・公務員等)の取り組みはどうでしたか

	5	4	3	2	1	未回答	平均値	前年比
保護者	21%	30%	42%	5%	0%	2%	3.7	△0.1
教員	11%	61%	28%	0%	0%	0%	3.8	0

⑧お子さんの進路活動への取り組みはどうでしたか

	5	4	3	2	1	未回答	平均値	前年比
保護者	19%	25%	41%	12%	2%	2%	3.5	△0.1
教員	0%	42%	56%	3%	0%	0%	3.4	▼0.1

⑨保健活動(健康・安全・衛生等)の取り組みはどうでしたか

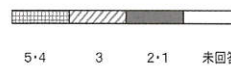
	5	4	3	2	1	未回答	平均値	前年比
保護者	17%	26%	57%	0%	0%	0%	3.6	0
教員	6%	56%	36%	3%	0%	0%	3.6	▼0.1

⑩個別指導・カウンセリング・特別支援教育等の取り組みはどうでしたか

	5	4	3	2	1	未回答	平均値	前年比
保護者	14%	21%	62%	2%	0%	1%	3.5	0
教員	8%	56%	36%	0%	0%	0%	3.7	△0.4

●設問に対する評価

- 5 満足(十分)
- 4 概ね満足(概ね十分)
- 3 普通
- 2 やや不満(やや不十分)
- 1 不満(不十分)



⑪各科(資格取得・ものづくり等)の取り組みはどうでしたか

	5	4	3	2	1	未回答	平均値	前年比
保護者	23%	29%	42%	5%	1%	1%	3.7	0
教員	28%	58%	14%	0%	0%	0%	4.1	△0.2

⑫各学年・各クラスの取り組みはどうでしたか

	5	4	3	2	1	未回答	平均値	前年比
保護者	21%	32%	46%	1%	0%	0%	3.7	0
教員	8%	44%	44%	3%	0%	0%	3.6	△0.1

⑬学校からの様々な情報提供はどうでしたか

	5	4	3	2	1	未回答	平均値	前年比
保護者	24%	32%	38%	5%	1%	0%	3.7	△0.1
教員	17%	53%	28%	3%	0%	0%	3.8	△0.4

⑭いじめの早期発見のための取り組みとその後の対応はどうでしたか

	5	4	3	2	1	未回答	平均値	前年比
保護者	16%	30%	49%	3%	1%	2%	3.6	0
教員	6%	58%	36%	0%	0%	0%	3.7	0

日米教員交流プログラム —CT2016 in Hawaii

情報技術科 鈴木 友和

「地球と宇宙」というテーマを題材に、参加する教員と所属校の生徒が日米相互の理解を深めるような教育プログラムを持ち帰るため、日米の教員が協力して教育プログラムを立案することを目的として実施されました。

2019年8月、日米教員交流プログラムに参加するためハワイ島を訪れた教員は、日本各地の中学・高校から合計15名、アメリカ各地の中学・高校から15名の合計30名。

参加者の専門分野は、理科系の先生が多かったですが、英語・数学・社会など、さらにアメリカからは家庭科の先生も。工業科は日本から電気系が1名、アメリカからは建設系と電子機械系の2名と、多様なメンバーが集まりました。

研修では、教育プログラム立案に参考になる講話やライティングトーク（発想を促すための情報提供）、実技を伴うワークショップ。また、ブレインストーミングやKJ法を用いたディスカッション、「地球と宇宙」というテーマに沿って、天文台のベース基



地での講話と施設の見学、キラウエア火山のある国立公園の見学や、地元の高校も見学。持ち帰った教育プログラムは「MeBukiプロジェクト」。寒河江・長野・大分・テキサス・ノースカロライナの5校での協働プログラム。宇宙開発（食料）につながる研究として各地固有の動植物の情報を収集・共有するなか、相互理解を深めるとともに国や言葉の壁をこえて課題解決に取り組む姿勢を身に付けることを目的としています。

現在は、情報技術科の工業研究部員の協力のもとICTを活用し、他校との交流を進めているところ。今後も、このプロジェクトを基盤としてグローバルな学習の機会を増やしていければと思います。

生徒指導部より

報告と御礼

生徒指導部長 赤井芳賀寿

今年度も皆様のご支援とご協力のおかげで、生徒指導部関係の行事を無事に終えることができました。心より感謝申し上げます。今年度の生徒会目標は「凡事徹底、寒河江工業高校の代表としてのあるべき姿」でした。その中で地域との協働活動も積極的に進め、6月の「若草のみち」植栽活動では、中央工業団地および町内会から多くの方々がお参加され、本校生徒職員と一緒に活動していただき、沿道がきれいに整備されました。部活動においては、今年度は特に本校生徒は輝き、3年電子機械科の長岡聖也君が陸上5000m競歩で県高校総体準優勝、県総体優勝と大活躍して東北大会出場を果たしました。また、弓道部は県新人大会団体優勝、個人でも2年電子機械科の鈴木淳矢君が優勝と快挙を成し遂げました。工業研究部においても、県高校生ロボコンテストでの優勝、県メカトロアイデアコンテストでの準優勝、マイコンカンカンラリー県予選上位入賞と輝かしい成績を残しました。校内活動でも10月には「新寒工祭」—One Era Begins—のテーマで寒工祭を開催し、短期間での準備で生徒同士の絆の深め充実した学校祭を行うことができました。学校祭期間中は今年度も左沢高校と連携し、本校からはラジコンカーの実演、左沢高校からは農作物商品の販売と、両校互いに協力しあいました。交通安全指導に関しては、6月の交通安全街頭指導を皮切りに交通安全街頭指導を年3回登校時に実施して交通事故撲滅の啓発を図りました。この活動では特にPTA育成部の方々からご協力していただき感謝申し上げます。最後に、普段の学校生活で、事故や問題行動、いじめについて今年度は残念ながら撲滅できませんでした。来年度こそは撲滅させるべく、生徒会からの啓蒙活動もより積極的に実施したいと考えております。これからもご協力をよろしくお願い申し上げます。

思春期セミナーを通して

養護教諭 東海林諭子

本校の保健教育は、思春期セミナーと称しておりますが、卒業すると同時に、即社会人になる生徒が多いことから「人生における最後の『LIFE教育』だ」と思っており、組んでいきます。このLIFEという英語には生命・生活・人生・活力といった意味があり、まさに私が生徒に伝えたい大切なことがすべて単語一つに込められています。生命誕生・育児模擬体験・

伝えたいこと

前生徒会長 遠田 武蔵



こんにちは、前生徒会長の遠田武蔵です。前生徒会長のあいさつとして、まだ未熟な私ですが皆さんに願いをしたいと思います。生徒会長と聞くと、忙しそうないメージがあると思いますが、実はそんなことはありません。私は、一年生と二年生の時に常任委員として活動していました。そして、そのままでの流れで生徒会長になったので、常任委員だった時と比べるとあまり大差はないです。人前に立つことが増えて責任というものを背負うようになるくらいです。この経験から皆さんに伝えたいことは、「やってみる」ということです。先入観でものごとを判断するのはなく、わからないために冒険することが大切なんです。NHKで放送されている「大科学実験」を知っているでしょうか。小学校の時に見たことがあるという人が多いと思います。その番組の最後に「やってみる」という言葉が必ず出てきます。人生は「やってみる」から進歩して、ネット上に様々な情報があり、今からやろうとしていることを既に体験して、感想や意見を書き込んでみる人があると思います。しかし、その体験でどう思うのか、どんな意見を持つのかは人それぞれであって体験しないとわかりません。だから、皆さんには何歳であらうと挑戦することを続けてほしいと思います。最後にあります。生徒会長は辛いですが、辛い分楽しいことや嬉しいことがたくさんあります。会長になつたことでやりたいことがやれて良い経験が出来ました。後悔はありません。とても楽しくかけがえのない思い出になりました。この三年間を忘れることはありません。ありがとうございました。

薬物乱用防止・救急法・デートDV防止・人生設計と健康というテーマに分け、三年間かけて、子どもたち自身が、これからの人生を主体的に、よりよい選択をしながら豊かに生きていくようにするにはどうするかという視点を持つて包括的に考えていくことができるように指導してきます。すべてを網羅することは出来ないかもしれませんが、指導の在り方を工夫しつつ今後保護者の方々のご理解とご協力を得ながらを続けていきたいと思っております。

我がまちのトピックス

ボランティア活動

山形南地区会長 石山 孝

山形南地区の親子ボランティア活動は、山形市の中心部にある「霞城公園」での草取りとゴミ拾いを行いました。

七月二〇日（土）、朝六時から約一時間にわたり作業を実施しました。当日は心配された雨も降らず、参加した皆さんは額に汗をかきながら草取りを一生懸命に行いました。

長さ百メートル程の場所に大量に生い茂っている草を手作業で取って行く作業は、想像以上に大変でしたが、親子が一緒になってボランティア活動を行うことが、今後社会に出ていく子供にとっても、また親にとっても、いい経験になったに違いありません。

また自分にとっても、山形南地区の方々と交流する機会がなかなかなかったもので、とても有意義な時間となりました。

当日は朝早い集合時間だったのにも関わらず、沢山の皆さんに参加していただくことができました。ありがとうございました。参加していた皆さん、お疲れ様でした。



寒河江東地区会長 日下部 茂

寒河江東地区の活動は毎年九月の第一または、第二の土曜日から日曜日に行われています。今年は九月七日土曜日に行いました。内容としてはチェリーランド裏河川敷一帯のゴミ拾い作業を行うというものです。朝の五時五十分集合し約一時間程度の活動となります。

その日は天気に恵まれていましたが、朝露が雨が降った後のようになっていました。その中をレジ袋と軍手を各自持参し、西の端から東の端までそして川辺近辺と、吸い殻やペットボトルの容器などの落ちていいるゴミを拾って回りました。夏休み期間の後半ということもあり、久しぶりに仲間と会い、とても嬉しうに、また真剣にゴミ拾いを行っている家の中は見られないう子供達の普段の学校生活が垣間見えたような気がしました。

このような行事や活動は、人のために何か自分に出来ることだけでなく、自分自身を磨くところもあると思います。また、今後の人生生活の中でもこういった活動に率先して参加し、困っている人や地域、社会に協力し、奉仕していただけたらと思います。そしてこの度、この活動に関わってくださった保護者の皆様、先生方、ありがとうございました。



準備は大切

一学年主任 奥山 靖春

七月に行われたインターンシップ。期間は、三日間と短かったですが、その準備は半年前からスタートしています。働くことについて考え、職業や業種、寒河江工業団地の企業を調べ備えてきました。五月、受け入れ先が決まると改めて事業所について調べ、生徒が自ら電話し訪問するなど、体も動かしてきました。普段、机に座っている生徒が八時間作業する事や、取り扱った製品が商品としてお金につながるという緊張感、これまで経験したことが無く、現場で体を動かし見聞きしたこと、これまで目に入っていたも見えなかつたこと、耳に入っていたも聴いていなかったこと、知っていても理解していなかったことが少しわかるようになったことでしょうか。終了後、「学校が一番良い」と言う声も聞こえましたが、これも本音だと思います。アルバイト経験もない生徒がほとんどですから、インターンシップでの経験は、必ず一つの指針になるはずで

ず一つの指針になるはずで、二年生もう一つの大きな行事は、修学旅行。事前準備をしたうえで、今年の旅は伊勢参りからスタート。古式の作法に倣う木立は深く、静かに参拝。二日目はそれぞれ本田技研の工場見学と鈴鹿サーキット走行、音楽でたぐきの焼き物製作、航空ミュージアムと名古屋城見学などを楽しみ、三日目の京都へ。高台寺から清水寺へ続く二年坂三年坂は、絵に描いた京都。四日目のお楽しみは班別研修とU.S.J. 準備が功を奏したのか、班別研修が面白すぎて集合時間ギリギリの班多数。そして、最終日は旅を惜しみながら帰路。旅行後、気持ちを切り替えるための学年集会を開催しています。来年は、いよいよ自分の進路を決める大切な年。準備をしてもしなくてもその時はやってきます。何もせず流れに身を任せるのか、準備をした上で自らの意思を持って動くのか。二年前、自らの意思で寒河江工業高校に進学したように、望む進路実現に向けて取り組んで欲しいものです。

新会長として

新生徒会長 川越 一吹



このたびは新生徒会長を引き継ぎ、生徒会長に就任した二年機械科の川越一吹です。

私は昨年常任委員として活動はしていたのですが、自分を変えていくきっかけにするために立候補しました。今までにはなかった、生徒会長になったので率先して引張っていかねければならないことに不安がありますが、その不安をなくすためにも仲間と協力して活動していきたいと思っています。その中で私は、一人ひとりが学校が楽しい、一人ひとりが寒河江工業高校に入學して良かった、と思えるような学校をつくりたいと思っています。

私がこれから生徒会活動を行っていくにあたり、特に力を入れていきたいものは、文化祭や体育祭などの行事です。私が一年生のときの文化祭があまりスムーズに進まず、三年生にとっては最後の年に残念だと思っていた人もたくさんいたと思います。今年は、全生徒が心から楽しんでもらえるように少し早いうちからの準備や、新しい企画を実施するように運営していきたいと思っています。体育祭では、毎年生徒一人ひとりが自分から盛り上げてくれるので、生徒会では、開会式、閉会式を重点的に盛り上げていきたいと考えています。行事を成功させるには生徒会だけでは不十分です。みんなの力を必要不可欠です。みんなで力を合わせて最高の思い出になるように頑張りたいです。

以上のことを達成できるように、平日頃から緊張感を持って行動し、言動などにも気を付けて信頼してもらえようように精一杯努力していきますので、どうぞよろしくお願ひします。



機械科



電子機械科



情報技術科

自分と向き合う

弓道部顧問 小野 光祥

県新人弓道大会において、団体、個人ともに優勝することができました。ご指導いただいた先生方・諸先輩方、ありがとうございました。

高校入学後から弓道を始め、最後の大会まで実質二年間。どれだけ真剣に取り組めるのか。三年生は昨年の県新人大会で団体ベスト8。力がありながら最後は県大会出場を逃しました。28メートル先の小さな次の勝負は、繊細かつ紙一重



進路指導部より

進路指導部部長 鈴木 智夫

進路希望を実現させた三年生の皆さん、内定・合格おめでとうございます。

今年度の進路状況を報告します。3学年の在籍は107名、約7割が就職（公務員含）、3割が進学となっています。

民間就職内定者は67名、十二月中旬に100%決定しました。県内が61名（91%）、県外が6名（9%）で、就職希望のほとんどの人が自宅から通動できる県内企業を希望し、地元志向が顕著です。第一志望合格率は87%（昨年度86%）でした。求人数は591件、県内がやや

で、自分との闘いでもあります。常に向上心を持ち続けることが大切だと感じました。練習において個人の考えはもちろんですが、先生・先輩からの助言、部員間でのアドバイスを大事にし、素直な気持ちと、粘り強く取り組むことが必要だと思います。

選ばれた団体戦メンバーだけではなく、部員一人一人が、「正しい考え方」と「正しい取り組み方」で部全体のレベルアップにつなげてほしいと思います。そしてインターハイへの道が開かれることを期待します。

メカトロアイデアコンテスト 準優勝・全国大会出場

機械科 榎 智夫

「メカトロアイデアコンテスト」とは、アイデアと技術

件数的には昨年より少ないものの、県外が増え、年々増加しています。希望者にとっては選べる幅が広がりましたが、企業としては人員不足としながらも求める基準に達していない受験生は採用しないという姿勢があります。他の応募者に比べて、基礎学力不足、コミュニケーション力が低いと感じた、元気が見られないなどが不合格の理由として挙げられました。

公務員関係は5名が希望、山形県総合土木、山形市技能、自衛官一般層候補生（2名）、の4名が合格しました。

進学については、ほとんどの生徒が推薦入試・AO入試で受験し、4年制大学9名、短期大

を駆使して製作したロボットで競い合う大会です。今年は新潟県の名産品に見立てたアイテムを、回収・設置・射出した。その完成度を点で競いました。全国大会出場を目標に掲げ、機械科課題研究班が挑戦しました。夏休みも登校して試作と実験を繰り返しながらリモコン型ロボット「夏休み破壊号」を製作しました。

九月に開催された山形県大会では準優勝！十月に新潟県で開催された全国大会では、予選敗退でしたが目標達成に生徒たち



は満足な様子でした。また、5人+αの生徒たちと本気で向き合い、ぶつかり合いながらも成長を間近で感じることができました。

活動紹介

ハンドボール部顧問 阿部 新吾

ハンドボール部は総勢二十七名と部員数も多く、毎日楽しく賑やかに活動しています。また、部員全員がハンドボール初心者ということもあり、練習ではパスキャッチやシュート練習などの基本的な練習から地道に取り組んでいます。

現在、部活動の中で大切にしていることの1つが、部員同士のコミュニケーションです。競技中は攻守全般において選手同士の意思疎通が不可欠であり、シュートを決めるときも相手の攻撃を止めるときも、互いに連携しチームが一つになったプレーが求められます。そのため、日頃から部員同士の交流を大切にし、意見や話し合いがスムーズに行えるような雰囲気づくりに努めています。部員の皆さんには、部活動を通じてハンドボールの魅力を感じ、仲間を信じ仲間感謝し仲間愛される人間に成長することを願っています。



願う事

一学年主任 木村 雅善

平成最後の入学生として一〇八名での入学だったが、二人の進路変更があり一〇六の在籍となった。入学後、新たな専門教科の学習やレポートの提出、人間関係の構築で苦労した生徒も少なからずいた。月日の経過、そして様々な行事や活動を通して生徒間の繋がりが深まりつつある状況である。三学期を迎え、学年団として一年生全員の進級と、生徒一人ひとりの成長を心から願う。

さて、年初めのテレビ番組で「時代を表す言葉」と題し、これまで流行した言葉について紹介されていた。携帯電話の「パリ3」「写メ」等懐かしかった。（今も使っているが）いつの時代も世相、流行等から「言葉」が生まれ、そして、世の中が移りゆく中で、それらの言葉は忘れ去られ死語となる。いつの時代も新しいモノを創りだすのは若い世代である。失敗を恐れず挑戦し続け、納得できるモノを創りだせる「人」となっている。